

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大久保小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	国語では、全国学力・学習状況調査、さいたま市学習状況調査のどちらにおいても、主語と述語の関係を捉える問題において課題が見られた。、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」への取組を全学年で重点的にに行い、当該学年で身に付けるべきことを明らかに示し、指導していく。 算数では、基礎的・基本的な知識・技能の定着に課題が見られた学年が多かった。そのため、授業時間内に確実に適用問題を実施していく。その際、ドリルパーク等を活用し、個人の実態に応じた問題に取り組めるようにする。
思考・判断・表現	授業に主体的に臨む姿勢が身に付いてきたことをふまえ、引き続き課題設定等の工夫をするとともに、根拠を明らかにして情報を読み取る活動などを重視し、授業を展開する。また、ICTを活用して児童がいろいろな考え方で学んだり、仲間と協力して考えたりする場面を積極的に取り入れた授業を展開する。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題>国語「読むこと」及び「言葉の特徴や使い方にに関する事項」において、平均正答率が低い。<指導上の課題>授業において習熟に差がある。 <学習上の課題>算数「図形」において平均正答率が低い。<指導上の課題>児童が反復・習熟に取り組む時間の設定が不十分である。	⇒ 半具体物を使った観察や構成などの活動を取り入れる【該当単元で各学年実施】 自分に必要な情報の読み取り方を指導する【該当単元で実施】。 ドリルパーク等を活用し、その授業で行った事項の反復・習熟に取り組む【毎授業開始時の実施】。
思考・判断・表現	<学習上の課題>文章と図表などを結び付けて必要な情報を見付けることに課題がみられる。 <指導上の課題>全学年において、学年の発達段階に応じた振り返りを実施し、主体的に学習に取り組む態度を育てていきたい。	⇒ 児童にとって必要感のある課題や、児童が主体的に課題を解決する場を設定する。【R6市調査「課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる」の質問への肯定的回答割合90%】

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	B	半具体物を使った観察や構成などの活動を取り入れることや、自分に必要な情報の読み取り方を指導することは、該当単元で実施することができた。ドリルパーク等のパソコンを使った反復・習熟、プリントや自主学習ノートを使った反復・復習については一層の活用幅がある。ドリルパークや自主学習プリントの紹介はできたが、児童の取組には個人差が大きかった。
思考・判断・表現	A	各教員が、受け持ちの教科において児童が主体的に課題解決に取り組めるような実践を研修し、児童にとって必要感のある課題や、児童が主体的に課題を解決する場を設定することができた。その結果、市調査「課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる」の質問への肯定的回答割合が小5で97.5%、小6で95.6%だった。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の主語・述語の関係を捉える問題に課題がみられた。解答類型を見てみると、述語の直前の言葉を主語と捉えてしまう児童が多く、主語に関する理解が十分とは言えないことが考えられる。重文や複文になると主語を正確に捉えることが難しくなる傾向が見られた。 算数「図形」における平均正答率について、本校と全国平均との差が、昨年度より1.4pt上昇した。しかし、円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さで底面の円周の長さが一致することの理解が定着していない傾向が見られた。
思考・判断・表現	国語の目的や意図に応じて伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題に課題が見られた。複数の資料やデータを分類したり関係付けたりして考えることに慣れていないことが考えられる。日頃から複数の資料を関係付けて解く問題に取り組む必要性がある。 算数の道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題に課題が見られた。「道のりが等しいこと」と「かかった時間が違うこと」のいずれかだけしか書けていない児童が多く見られた。正答の理由を、言葉や数を用いて説明する力を身に付けさせることができるような授業を行う必要があると考えられる。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の「文の中の主語と述語の関係を理解する問題」において課題が見られた。主語には「は、が、も」がつくこと、述語は文の最後の方に来ることが多いこと、主語と述語をつないで意味が分かることの理解ができていないと考えられる。小6においては同様の問題について全国学力・学習状況調査で課題が見られたものの、市調査においては良好な結果であり、改善の傾向にある。 算数の「図形」において、各学年の平均正答率は昨年度よりも上昇したものの、学年によっては本校と市平均との差が大きくなっており、引き続き課題があるととらえる。
思考・判断・表現	国語の「目的を意識して中心になる語や文を見付けながら読む問題」、「話し手の意図をとらえながら聞き、効果的に助言できるかどうかを見る問題」に課題が見られた。説明文や相手の話の中心をとらえる力が不足していると考えられる。 算数の「グラフを読み取る問題」、「図形の定義、性質について理解できているか問う問題」に課題が見られた。グラフから必要な情報を読み取る力、図形の定義の定着に課題があるととらえられる。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	C	半具体物を使った観察や構成などの活動を取り入れることや、自分に必要な情報の読み取り方を指導することは、該当単元で実施している。 ドリルパーク等を活用し、その授業で行った事項の反復・習熟に取り組むことができていないことがある。	ドリルパーク等のパソコンを使った反復・習熟に加え、プリントや自主学習ノートを使った反復・復習に取り組む。
思考・判断・表現	B	各教員が、受け持ちの教科において児童が主体的に課題解決に迎えるような実践を研修し、実践している。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)